



# af

THE ASAHI GLASS FOUNDATION



## 公益財団法人 旭硝子財団

2024年版

# 1

# 旭硝子財団の概要

## 目的

旭硝子財団は、次の時代を拓くための研究等への助成、次の時代を担う優れた人材への奨学助成、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対する顕彰などを通じて、人類が真の豊かさを楽しむことができる新たな社会および文明の創造に寄与します。

## 沿革

旭硝子財団は、旭硝子株式会社（現 AGC 株式会社）創立 25 周年を記念して、その翌年の 1933 年に旭化学工業奨励会として設立されました。発足以来、戦後の混乱期を除いて半世紀以上の間、応用化学分野の研究に対する助成を継続しました。

その後、1990 年に新しい時代の要請に応える財団を目指して事業内容を全面的に見直し、助成対象分野の拡大と顕彰事業の新設を行うとともに財団の名称を旭硝子財団に改めました。

2018 年に公益財団法人 旭硝子奨学会を吸収合併しました。旭硝子奨学会は 1957 年に旭硝子株式会社の創立 50 周年を記念して設立され、翌年より日本人学生への奨学助成を開始し、その後助成対象をタイ、インドネシア、中国、韓国、ベトナムからの留学生にも広げました。

## 旭硝子財団のあゆみ

1933 年	旭硝子株式会社が創立 25 周年を記念して旭化学工業奨励会を創設	2010 年	「環境研究 近藤次郎グラント」研究助成プログラムの採択を開始
1934 年	商工省より財団法人としての認可を受け、大学の応用化学分野への研究助成を開始		「生存の条件—生命力溢れる太陽エネルギー社会へ」及び「生存の条件—生命力溢れる地球の回復」を出版
1957 年	旭硝子株式会社が創立 50 周年を記念して旭硝子奨学会を創設	2012 年	タイ・キングモンクット工科大学トンプリ校への研究助成を開始 ブループラネット賞歴代受賞者による共同論文「環境と開発への課題：緊急に成すべき行動」を発表 旭硝子奨学会が東日本大震災奨学金を創設
1958 年	旭硝子奨学会が日本人学生に対する奨学金給付事業を開始	2013 年	高等専門学校に在籍する研究者への研究助成採択を開始
1961 年	旭硝子工業技術奨励会と改称	2018 年	旭硝子奨学会と合併し、奨学事業を承継 ぐりんとうッドンのコミック ブループラネット賞おもしろ教室シリーズを出版開始
1982 年	タイ・チュラロンコン大学への研究助成を開始	2020 年	「サステイナブルな未来への研究助成」プログラムの採択を開始 ベトナム・ハノイ工科大学への研究助成を開始 「日本人の環境危機意識調査」を実施（以後毎年実施）
1988 年	インドネシア・バンドン工科大学への研究助成を開始	2022 年	ブループラネット賞創設 30 周年記念シンポジウムを開催
1990 年	財団法人 旭硝子財団と改称 旭硝子奨学会が外国人留学生に対する奨学金給付事業を開始	2023 年	「ブループラネット地球環境特別研究助成」プログラムの採択を開始 奨学生を対象に「海外研究活動支援奨学金」を開始
1991 年	「自然科学系研究助成」の対象領域を応用化学系以外にも拡大	2024 年	CMD（修博一貫奨学生）の採用を開始 能登半島地震災害奨学金を創設
1992 年	ブループラネット賞の贈賞を開始 「地球環境と人類の存続に関するアンケート調査」を開始 「人文・社会科学系研究助成」を開始		
2008 年	「若手継続グラント」「ステップアップ助成」研究助成プログラムの採択を開始		
2009 年	公益財団法人へ移行 「Our Vision: 生存の条件」を出版（英語・中国語・韓国語・アラビア語・フランス語で翻訳出版）		

## 主な事業

### 研究助成事業

日本国内およびタイ、インドネシア、ベトナムの4大学の研究者に対する研究助成を行っています。今までに約5,870件、約125億円の研究助成金を贈呈しました。



### 奨学事業

日本国内の大学院に在籍する日本人学生や留学生向けに奨学金を支給しています。今までに日本人学生約4,070名、外国人留学生約340名、約36億円の奨学金を支給しました。



### 顕彰事業

1992年以来、地球環境国際賞「ブループラネット賞」の授賞、ならびに「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」を実施しています。アンケートの調査結果として、毎年「環境危機時計®」の時刻が発表されます。



2018年より、研究助成事業、奨学事業、顕彰事業を3本の柱とする活動を行っています。

## 資産総額ならびに事業費

正味財産(2024年2月末現在) 433億円

経常費用計(2023年度) 15.32億円

## 役員・評議員(2024年6月1日現在)

### 役員

#### 〈理事長：代表理事〉

島村 琢哉 AGC(株)取締役会長

#### 〈専務理事：代表理事〉

杉本 直樹(常勤) 元AGC(株)執行役員 技術本部 材料融合研究所長  
(以下、五十音順)

#### 〈理事〉

加藤 隆史 東京大学教授  
熊坂 隆光 産経新聞社相談役  
佐藤 郁哉 同志社大学教授、一橋大学名誉教授  
白井 克彦 早稲田大学名誉顧問  
杉山 秀二 日本情報経済社会推進協会会長、  
元経済産業省事務次官  
坪村 太郎 元成蹊大学副学長  
中條 善樹 京都大学名誉教授  
中井 検裕 東京工業大学名誉教授  
野依 良治 名古屋大学特別教授  
波多野 睦子 東京工業大学工学院教授・学長特別補佐  
林 良博 東京大学名誉教授、国立科学博物館顧問  
平井 良典 AGC(株)代表取締役 社長執行役員 CEO  
平尾 公彦 京都大学福井謙一記念研究センターリサーチダイレクター  
前迫 ゆり 奈良佐保短期大学教授・副学長、  
元大阪産業大学大学院教授・研究科長  
吉川 洋 東京大学名誉教授  
吉川 弘之 東京/大阪国際工科専門職大学学長、日本学士院会員、  
元日本学術会議会長、東京大学名誉教授・元総長

### 〈監事〉

寺島 孝 元旭硝子(株)監査役  
三毛 兼承 (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役 執行役会長  
若林 辰雄 三菱UFJ信託銀行(株)特別顧問

### 評議員

相澤 益男 東京工業大学名誉教授・元学長  
伊賀 健一 東京工業大学名誉教授・元学長  
今井 通子 (株)ル・ベルソー代表取締役(登山家)  
大崎 仁 IDE大学協会副会長、元文化庁長官  
大宮 英明 三菱重工業(株)相談役  
加藤 良三 元駐米大使  
倉田 英之 AGC(株)代表取締役・専務執行役員 CTO  
小林 健 三菱商事(株)相談役  
小宮山 宏 (株)三菱総合研究所理事長、元東京大学総長  
島田 仁郎 元最高裁判所長官  
中村 桂子 J T生命誌研究館名誉館長  
西村 重雄 九州大学名誉教授  
松尾 憲治 明治安田生命保険(相)名誉顧問  
宮地 伸二 AGC(株)代表取締役・副社長執行役員 CFO・CCO  
毛利 衛 宇宙飛行士、日本科学未来館名誉館長

※常勤の記載のない役員・評議員は非常勤

# 2

# 研究助成事業

旭硝子財団は、次世代社会の基盤を構築するような自然科学の独創的な研究、および社会の重要課題の解決に指針を与えるような人文・社会科学の研究を助成します。

## 国内研究助成

2024年度の国内研究助成の募集(2025年度採択)は、下記の5つのプログラムで実施します。

## プログラム概要

### 【募集対象者】

国内の大学とその附置研究所、大学共同利用機関、高等専門学校に勤務し、主体的に研究を進めている常勤の研究者。任期付研究者の場合には、当財団の定めたガイドラインがあります。

### 【募集プログラムと分野】

- ▶ **研究奨励**：若手研究者による基礎的・萌芽的な研究提案を支援します。〈化学・生命，物理・情報〉
- ▶ **持続可能な未来への研究助成**：持続可能な社会の実現や地球環境問題の解決を目指した研究提案を助成します。〈建築・都市，人文・社会科学，環境フィールド研究〉
- ▶ **若手継続グラント**：過去3年間に当財団からの助成研究を終了した将来有望な研究者を支援します。
- ▶ **ステップアップ助成**：過去3年間に当財団からの助成研究を終了した将来有望な研究テーマを支援します。
- ▶ **ブループラネット地球環境特別研究助成**：SDGsの目標に沿った地球環境に関わる基礎研究から、これまでの研究成果を発展させて社会実装に向けた検証を試みる研究を支援します。〈化学・生命，物理・情報，建築・都市，人文・社会科学，環境フィールド研究〉

### 【選考】

各分野ごとに、選考委員会が書面審査とヒアリング審査を行います。但し、「研究奨励」と「持続可能な未来への研究助成」の提案研究コースは書面審査のみで行います。

### 【応募情報】

毎年6-7月に新しい応募情報を公開します。応募に必要な書類は当財団ホームページよりダウンロードしてください。応募の締切は8-10月です(プログラム毎に異なります)。

## ①【研究奨励】

### 化学・生命分野

1979年以降生まれ

- ◎助成額：300万円以内/件
- ◎研究期間：1~2年間

### 物理・情報分野

1979年以降生まれ

- ◎助成額：300万円以内/件
- ◎研究期間：1~2年間

※応募可能な方には、当財団から通知します

## ③【継続型グラント】

過去3年間に旭硝子財団からの助成研究を終了した研究者が対象です。

### 若手継続グラント

1978年以降生まれ

- ◎助成額：800万円以内/件
- ◎研究期間：3年間

### ステップアップ助成

応募年齢制限はありません

- ◎助成額：800~1,400万円以内/件
- ◎研究期間：3~4年間

## ②【持続可能な未来への研究助成】

### 建築・都市分野

### 人文・社会科学分野

### 環境フィールド研究分野

### 提案研究

基礎的・萌芽的研究を中心として広く研究者のアイデア提案を支援するコース。1979年以降生まれ

- ◎助成額：100~250万円/件
- ◎研究期間：1~2年間

- ◎助成額：100~200万円/件
- ◎研究期間：1~2年間

- ◎助成額：100~200万円/件
- ◎研究期間：1~2年間

### 発展研究

基礎的な研究の成果をもとに、さらに発展させる研究を支援するコース。(応募年齢制限はありません)

- ◎助成額：300~600万円/件
- ◎研究期間：2~4年間

- ◎助成額：250~400万円/件
- ◎研究期間：2~4年間

- ◎助成額：300~600万円/件
- ◎研究期間：2~4年間

## ⑤【ブループラネット地球環境特別研究助成】

応募年齢制限はありません

- ◎助成額：1,000~3,000万円以内/件
- ◎研究期間：2~4年間

## 海外研究助成

タイ・チュラロンコン大学、タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校、インドネシア・バンドン工科大学、ベトナム・ハノイ工科大学に対して、各大学での内部選考と推薦を経た、基礎から応用までの幅広い研究提案を支援します。

## 研究助成金贈呈式・助成研究発表会（日本・タイ・インドネシア・ベトナム）

国内では例年6月に贈呈式，7月に発表会が開催されます。海外では例年6-9月にタイ，インドネシア，ベトナムで贈呈式ならびに発表会が開催されます。



日本



チュラロンコン大学



キングモンクット工科大学トンブリ校



バンドン工科大学



ハノイ工科大学

## 研究助成選考委員（2024年4月）

### 化学・生命分野

加藤 隆史※ 東京大学大学院工学系研究科教授  
 浅沼 浩之 名古屋大学大学院工学研究科教授  
 大越 慎一 東京大学大学院理学系研究科教授  
 小川 順 京都大学大学院農学研究科教授  
 後藤 由季子 東京大学大学院薬学系研究科教授  
 谷口 正輝 大阪大学産業科学研究所教授  
 林 晃敏 大阪公立大学大学院工学研究科教授  
 松原 誠二郎 京都大学国際高等教育院特定教授

### 物理・情報分野

波多野 睦子※ 東京工業大学工学院電気電子系教授  
 伊藤 寿浩 東京大学大学院工学系研究科教授  
 中村 宏 東京大学大学院情報理工学系研究科教授  
 平川 一彦 東京大学生産技術研究所教授  
 湯浅 新治 産業技術総合研究所新原理コンピューティング研究センター長

### 建築・都市分野

中井 検裕※ 東京工業大学名誉教授  
 高口 洋人 早稲田大学理工学術院教授  
 藤田 香織 東京大学大学院工学系研究科教授

### 人文・社会科学分野

佐藤 郁哉※ 同志社大学商学部教授，一橋大学名誉教授  
 梅津 千恵子 東北公益文科大学公益学部教授，京都大学名誉教授  
 柳 憲一郎 明治大学名誉教授  
 山田 高敬 金城学院大学国際情報学部教授，名古屋大学名誉教授，東京都立大学名誉教授

### 環境フィールド研究分野

前迫 ゆり※ 奈良佐保短期大学教授・副学長，元大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授・研究科長  
 大黒 俊哉 東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
 川北 篤 東京大学大学院理学系研究科附属植物園教授

※選考委員長

# 3 奨学事業

旭硝子財団の奨学プログラムは，産業，経済及び社会の進歩，向上を担う優れた人材を育成するために，優秀な大学院生に返済義務のない給与奨学金を支給し，指導助言も提供するプログラムです。

## プログラム概要

### 【推薦受付方法】

毎年春に，当財団の指定する推薦依頼大学院からの推薦を通して応募を受け付けます（学生からの直接の応募は受付けておりません）。

### 【日本人奨学プログラム】（毎年，計30名採用）

日本国内の大学院に在籍する日本人学生を対象とし，修士は月額10万円，修士（CMD：修博一貫）は月額10万円（博士進学後は月額25万円），博士は月額12万円を支給します。支給期間は，在籍する大学院の正規の修学期間で，修士は2年間，博士は3年間で限度とします。

### 【外国人留学生プログラム】（毎年，計18名採用）

日本の大学院に在籍するタイ，インドネシア，中国，韓国，ベトナム人留学生を対象とし，修士，博士とも月額15万円を支給します。支給期間は，在籍する大学院の正規の修学期間で，修士は2年間，博士は3年間で限度とします。

※両プログラムとも，別途，海外研究活動支援奨学金として上限20万円を支給します。



奨学金授与式

# 4

## 顕彰事業「ブループラネット賞」



ブループラネット賞は、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や組織に対して感謝を捧げると共に、多くの人々がそれぞれの立場で環境問題の解決に参加されることを願って1992年に創設されました。

「ブループラネット賞」のシンボルマークは、美しい地球の“水と大気”を背景として、地球を守ろうとする人間のエネルギーあふれる活動をあらわしています。人間・地球・宇宙が、このマークのなかでひとつになっており、水の輝きと大気の流れを象徴する明るいブルーをシンボルカラーにしています。



### 賞の概要

8月から10月にかけて国内外の推薦人に候補者の推薦を依頼し、その中から毎年原則として2件を選定します。翌年6月頃に受賞者を発表し、秋には受賞者をお迎えして表彰式典を東京で挙行し、記念講演会を東京と京都で開催します。受賞者にはそれぞれ賞状・トロフィーならびに賞金50万米ドルが贈呈されます。

### 顕彰の対象

持続可能な社会の実現に確かな展望をあたえる観点から、地球環境の保全・再生に向けた理念構築や科学的理解、あるいは対策や実践活動に大きく貢献した個人または組織を顕彰します。

### 2024年(第33回)ブループラネット賞受賞者

ロバート・コスタンザ教授 (米国・オーストラリア)  
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、グローバル・プロセス  
ペリティ研究所



1997年の論文で、自然環境が人間に提供する生態系サービス<sup>※1</sup>の経済的価値が、当時の世界のGDP総額を上回っていることを初めて実証し、それまで過小評価されていた生態系サービスの重要性を世界に示しました。経済は社会と有限な生物圏に組み込まれていると考える「生態経済学」という新しい学術分野の共同創設者でもあり、生態系が持続可能である幸福な社会の実現を積極的に提唱しています。

※1 自然の生態系が人間にもたらす恩恵のこと。  
例：水供給、気候の調節、景観、受粉など。

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学  
-政策プラットフォーム (IPBES)

設立：2012年4月21日 (事務局：ドイツ)



生物多様性、生態系サービス、そして自然が人間にもたらすものについての知見と科学における最先端の国際機関です。IPBESの画期的な報告書

は、様々な規模、分野、知識体系において科学に基づいた政策や行動の基盤となっています。企業による環境への影響の評価、開示、改善も始まっており、IPBESの評価報告書は、企業のサステナビリティ戦略やESG(環境、社会、ガバナンス)活動の構築に役立てられています。

## 表彰式典

毎年秋に受賞者をお迎えして、表彰式典を挙ります。



## 受賞者記念講演会（東京・京都）

受賞者による講演，モデレーターを通じた出席者との質疑応答が行われます。

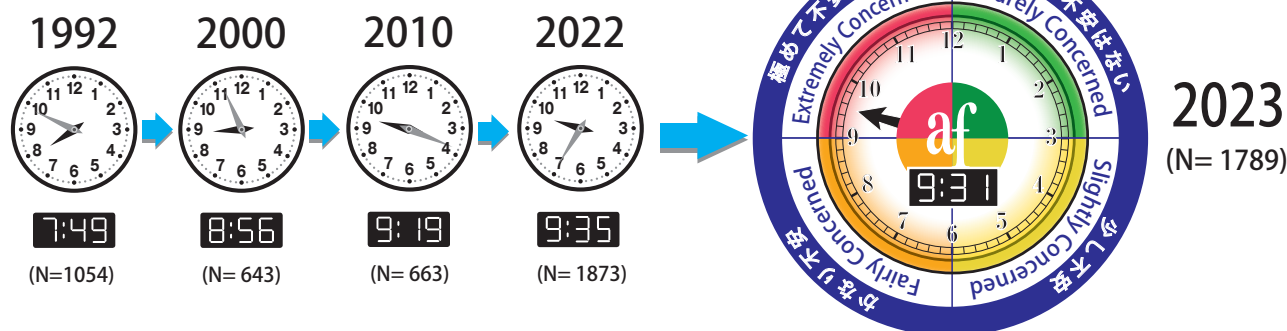


# 5 地球環境問題と人類の存続に関するアンケート

地球環境を保全するにはグローバルな対策が不可欠であり，そのためには，世界の人々が環境問題の解決に向けて共通の認識を深め，協調関係を育むことが重要です。そこで，1992年より，世界各国の政府や民間の環境問題に関する有識者を対象に「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」を実施し，様々な角度から意見を聞き，調査結果を毎年9月に公表しています。

## 環境危機時計®

地球環境の悪化に伴って回答者が人類存続に対して抱く危機感を，時計の針で表示する「環境危機時計®」を独自に設定し，毎年調査をしています。2023年の環境危機時計®の平均は9時31分となり昨年より4分針が戻りました。



## 調査の概要

調査期間：毎年4月から6月

調査対象：世界各国の政府・自治体，非政府組織，大学・研究機関，企業等で環境問題に携わる有識者（旭硝子財団保有データベースに基づく）

# 6 生活者の環境危機意識調査

2023年は「第4回生活者の環境危機意識調査」とし，日本を含む世界25カ国の10～60代の一般人に対し，環境問題への危機意識および行動についてインターネットで調査を実施しました。自国内の環境問題で危機的だと思う項目の1位は「気候変動」で有識者への調査結果と同じでした。一方，環境危機意識を時刻に例えると「7時23分（かなり不安）」となり，世界の有識者の回答「9時31分（極めて不安）」とは2時間以上の差があることがわかりました。

全体（25カ国）計





## 公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F  
Tel 03-5275-0620, Fax 03-5275-0871

## THE ASAHI GLASS FOUNDATION

2nd Floor, Science Plaza, 5-3, Yonbancho,  
Chiyoda-ku, Tokyo 102-0081, Japan  
Phone +81-3-5275-0620, Fax +81-3-5275-0871

E-Mail [post@af-info.or.jp](mailto:post@af-info.or.jp)  
URL <https://www.af-info.or.jp>